

2025年

3

月号

神戸徳洲会病院月刊通信

こべとく通信

ドクターズコラム
その36

ご挨拶

皆様、こんにちは。2024年9月より神戸徳洲会病院に赴任して参りました、小児科医の石川翔一と申します。もともとは大学病院のNICU(新生児集中治療室)にて、新生児科医をしておりました。NICUでは、多くの早産児や先天性疾患を有する赤ちゃん(ハイリスク新生児)を診させていただきました。赤ちゃんたちはNICUを卒業し、ご自宅に帰り、それぞれの社会に巣立っていきますが、いろいろな子ども達を診させていただいた経験から、子どもの発達について興味を持つようになりました。そしてご縁があって留学をする機会を得て、2022年6月から2024年の7月までの2年間、アメリカのメリーランド州ボルチモアという都市にある、ジョンズホプキンス大学で、発達と食育についての勉強をして参りました。私の担当したプロジェクトでは食事を通して、発達障害に合併する精神症状を緩和する研究をしておりました。日本とは違う環境で研究に集中できたことは、大変刺激のある経験となりました。



小児科 医長

いしかわ しょういち
石川 翔一

留学中は自分で時間を調整できましたので、勤務時間外や週末は家族との時間を優先することができました。子どもが小さい時期に多くの時間を家族と共有できたことは、家族にとって、子どもの成長にとって本当に重要なことだと思います。私達家族の楽しみの一つとして、国立公園に行くことでした。そこで、アメリカの国立公園をぜひ知ってほしいと思い、少し紹介したいと思います。現在アメリカには63の国立公園があるそうです。その中には、有名なグランドキャニオン国立公園や、イエローストーン国立公園があります。国立公園では、自然環境や風景を保護するために、手を加えずにそのままの状態で保存されており、人為的な開発は制限されています。規模も大きく日本では味わうことのできない、大自然に触れることができます。例えばイエローストーン国立公園の面積は約9000km²あり、四国の半分に相当します。その中で自然の景色を堪能するもよし、トレイルを歩くもよし。運が良ければ、野生動物に出会えることもあります。その他、レストランや、キャンプ場やホテル、ビジターセンターという案内所等があります。ビジターセンターでは、その公園の生態系や地形に関する展示物があったり、お子様が一緒ならば、受付でもらえるアクティビティブックを仕上げると、レンジャーバッジをもらえるレンジャープログラムというものもあり、本当に飽きることはありません。

今回は国立公園について、簡単にご紹介をさせていただきました。また機会がありましたら、次はもっと具体的にご紹介できたらと思います。結局何の紹介かわからなくなりましたが、今後とも神戸徳洲会病院小児科をよろしく願います。

ペースメーカー外来 変更のお知らせ

2025年3月より当院の「ペースメーカー外来」を「デバイス外来」に変更いたします。

※診療内容に変更はございません。引き続きよろしくお願い申し上げます。

2025年2月まで

【ペースメーカー外来】



2025年3月より

【デバイス外来】

心肺蘇生法講習の講師を医療チームで



2025年2月21日(金)、「社会福祉法人みかり会 小規模特別養護老人ホーム花の森」にて法人に入職される新任職員26名の方を対象に心肺蘇生法(CPR)の講習会を開きました。座学の後はグループに分かれていただき模型を用いて心配蘇生法やAEDの使用についてを学んでいただきました。

当院の救急救命士・薬剤師の他、小児科医師もチームに加わり「子どもの蘇生法」についても指導させていただきました。みかり会さんには2年前から毎年ご依頼いただき、今回で3回目の実施となりました。救急医療を担う病院として、今後も地域の心肺蘇生法の普及を目指したいと思います。

地域貢献活動 ～心肺蘇生法普及への取り組み～

神戸徳洲会病院では2006年から救命率の向上を目的として、地域へ心肺蘇生法普及活動を行っています。主に地域の小学校や中学校の教員の方々、介護施設の職員の方々を対象に当院の救急救命士や看護師、薬剤師など他職種がチームを組み、各施設にお伺いして心肺蘇生法講習会を開催しております。



看護師のナラティブ発表会と修了式



クリニカルラダー I 修了式



2025年2月20日(金)、1年目看護師のクリニカルラダー I のナラティブ発表会・修了式を院内で行いました。発表会では、ひとりずつ当院に入職してから一年間で学んだことや感じたことを発表し、お互いの成長を確認することができました。また、修了式では、尾野院長から修了証書と記念品を受け取りました。春からは後輩となる新しい看護師をお迎えします。引き続き、向上心を持つことを大切にしながら皆と一緒に日々の業務に向き合っていきたいと思っております。